

# VIEW

## N700A編成の交番検査がスタート！ 作業上の問題点等を関西支社に申し入れました！！

5月31日、以下の内容で支社に申し入れを行いました！

### 大阪交番検査車両所における「作業方法改善」に関する申し入れ

5月7日からN700A編成（G編成・Z編成を改造したX編成も含む）の交番検査施工が開始され5月中に大阪交番検査車両所では3編成の交検を行った。従来と作業方法が大きく変更されているが、これは残り少なくなるC編成以外は改造するX編成を含め今後の交検のやり方を基本的に変えていくということになる。さしあたり現段階での「問題点」を含め、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること。

#### 記

1. 従来パンタグラフを上げて加圧した状態で行っていた「側引戸検査」のほとんどをG編成・X編成ではパンタグラフを下げた後の無加圧状態で行うなど、加圧状態での「予備検査」時分を従来より大幅に短くしているが、これは電力消費を少なくするコスト削減が目的なのか、まずその考え方を明らかにすること。
2. 無加圧状態で行う「側引戸検査」では、側引戸の「戸袋内確認」をロックシリンダーが突出していないドアの隙間が狭い状態で行うことになり、異物を発見しにくい。また、加圧後の「側引戸開閉テスト」で不具合発見後の、連絡・修繕の対応時間が短いなど、安全上問題がある。また今後、真夏など空調の効いていない車内で作業を行うことになり作業環境が劣悪になる。「側引戸検査」は従来通り加圧状態で行うこと。
3. 「側引戸検査」の検査方法・工程を見直したことにより、SEK社員が無加圧状態になるまでの間に行っていた作業が時間短縮の影響で相当に忙しくなっていると聞いている。会社として協力会社の作業方法まで責任を持つべきと考えるが、SEKにおける現状をどのように認識しているのか明らかにすること。
4. 今年の5月に指定されたチェックシートによると、「ノルトロック」を使用して側カウル等のボルト締結を行った場合は、トルクレンチを使用して合いマークをすただけでボルトの打音検査は作業指定されていない。また「ノルトロック」を使用したボルトを叩くのは構造上よくないと聞いている。今後「ノルトロック」を使用した側カウル等の検査は「打音検査」から「目視検査」に改めること。
5. 「特交検指示書」に記載されている「機器検査」は300系編成以前の交番検査を施工していた頃の名残をそのまま放置しているもので意味がない。よってACM搭載号車の開けパターンの場合に「ACM検査」とするなど、表記方法を改めること。